

C-76 装束類の裁縫について(第5報) — 表袴・大口 —

大専女子大家政

○阿部栄子

田中孝子

橘 香

村山栄子

海浦由希子

木野内清子

目的 前報に引き続き、日本の貴重な文化遺産を伝承するため、伝統技術の考察と記録を目的に本調査を試みた。今回は束帯をとりあげ、その中の表袴・大口の裁縫過程を考察してみた。

方法 伝統技術の伝承は体得によるものが多く、その記録はほとんどみられない。そこで過去の装束についての報文を参考に現在の装束の裁縫過程を装束師の技術から考察してみた。

結果 表袴は座礼に適するように紐状の襠を左右それぞれ後ろ脛から前脛にかけて輪糸に付けた独特の返襠(かえりまち)や膝継ぎなどに特徴がみられる。また、大口は表袴の下に着用する下袴で、脛は紐一本で廻らし、左の脇が輪となっているなど前報の長袴との共通点が考察された。